

# 天使の歌声サラ・ブライトマン

## 7月に来日

全世界で3000万枚のトータルセールスを誇る英国出身の歌姫、サラ・ブライトマン(52)が7月、約5万人動員の日本ツアーを敢行する。今年1月リリースされた新作アルバム「ドリームチェイサー(夢追人)」のセールスも好調だが、「癒やし系」の元祖ともいえるサラの美声には、人を心地よくする波長が存在することが分かった。



# 分析で癒やしの波長

サラの新作「ドリームチェイサー(夢追人)」(上)はビジネスマンの疲れた耳にも心地良い

クラシックとポップスを融合した独自のスタイルで代表曲「タイム・トゥ・セイ・グッバイ」をはじめ、新作に収録された「星影のエンジェル」など、伸びやかな響き渡る高音に、人々はなぜ魅了されるのか。その美声について、「モテ声診断」のツールを開発した声総研の発起人として知られる研究者、東京工芸大学工学部

メディア画像学科の森山剛助教が分析した。「彼女の声には、耳に入りやすいとされる、3オクターブ近辺の周波数が含まれています。雑音の少ない澄んだ音色である、ということができます。また、他人に「サラの歌声は非常に純粋な倍音構造を見ることができます。フルートの音と比較すると、同じように非常にクリアな倍音構造であることがわかります」

倍音とは、「ド」の音を歌うとき、その2倍、3倍高い「ド」の音もわずかながら同時に鳴っている状態で、「天使の声」などと表現されることもある。

人を癒やす声には、やはり理由があった。